

教科	科目	単位数	学年	集団
保健体育	スポーツⅢ	1	2	スポーツ探究科

使用教科書	副教材等
	アクティブスポーツ（大修館）

科目の目標
<p>体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、主体的、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、健やかな心身の育成に資するとともに、生涯を通してスポーツの推進及び発展に寄与する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 武道及び諸外国の対人的競技等の推進及び発展に向けた多様な関わり方を理解するとともに、技能を身に付ける。</p> <p>(2) 武道及び諸外国の対人的競技等における自他や社会の課題を発見し、思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。</p> <p>(3) 武道及び諸外国の対人的競技等の学習に主体的に取り組むとともに、伝統的な行動の仕方、公正、協力、責任、参画、共生などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯を通してスポーツを継続するとともにスポーツの推進及び発展に寄与する態度を養う。</p>

評価の観点とその趣旨	
①知識・技能	柔道の歴史や文化、技術およびその高め方、合理的な練習方法や練習計画の立て方、体力の高め方、課題解決の方法、審判法や試合の企画、運営の仕方、初歩的な指導法、見取り稽古の仕方や動作分析の仕方を理解することが出来る。 また、素手で相手と直接組み合って相手の動きに応じて投げる、抑えるなどによって勝敗を競う特性を踏まえ、基本動作を用いて投げ技、固め技、技の連絡変化、防御などの対人的技能を高めた攻防が出来る。
②思考・判断・表現	禁止事項などの試合のルールを遵守し、技術の上達に向けて互いに高め合おうとすることが出来る。 自己の課題を解決すると共に、生涯を通して、武道の振興発展に関わることが出来るよう、習得した知識を活用して、課題の設定や情報の分析及び適切な選択、活動の評価、目標の修正や練習計画の組み立てが出来るようにする。（行動観察・レポート）
③主体的に学習に取り組む態度	柔道の学習に主体的に取り組むと共に、相手を尊重し、礼法などの伝統的な行動の仕方を大切にすることが出来る。相手の技能の程度や施設の状況等に応じて、運動量を調節、危険を予見しての回避行動、健康・安全を確保し事故防止を図ること等が出来る。（行動観察・レポート）
評価方法	
①知識・技能 行動観察・レポート・スキルテスト ②思考・判断・表現 行動観察・レポート ③主体的に学習に取り組む態度 行動観察・レポート	

学習計画						
月	領域	単元	単元や題材などの内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	柔道の基本動作 投げの形 手技	浮き落とし 背負い投げ	投げの形を学習することにより、礼法・技の理合いや技の変遷・どのようにして改良されてきたかを理解する。		○	○
5	投げの形 腰技	肩車 浮き腰 払い腰 釣り込み腰			○	
6	投げの形 足技 形の披露	足払い 支え釣り込み足 内股		○	○	

7	振り返り				○	○
9	受け身 体裁き 技に応じた基礎体力作り	後 横 前 前回り 摺り足 継ぎ足	形で習得した技の理合いを実際の技に生かすことにより、基本の重要性、柔道の楽しさを理解する。		○	○
10	【立ち技の復習】 手技 腰技 足技	一本背負投 背負投 払い腰 釣り込み腰 支え釣込足 内股 大内刈		○ ○ ○		
11	連続技・連絡変化 【寝技の習得】 抑え込みの入り方	打ち込み→投げ込み うつ伏せの状態からの返し方	寝技の基本を学習することにより、人間の身体の仕組みや理にかなった技の素晴らしさを理解する。		○ ○	
12	立ち技から寝技への連絡変化 振り返り		立ち技から寝技への連絡変化。(手技・腰技・足技から)		○ ○	○
1	寝技乱取り 自由稽古		立ち技・寝技の自由稽古・試合を通じて、柔道の楽しさを理解する。			○ ○
2	試合(紅白戦) 審判法の習得			○		○
3	振り返り				○	○